

エネルギー理工学研究所公開講演会 ③

- 日 時：10月18日（日）14:00～16:00
- 会 場：宇治おうばくプラザ 1階 きはだホール
- 定 員：300名

■ プログラム

14:00～14:10 開会挨拶

所長 片平 正人

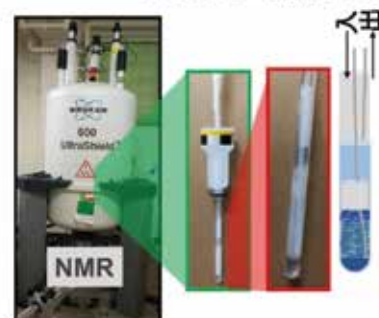
14:10～15:00 「研究テーマの偶然と必然

ーバイオマス研究とライフサイエンス研究の交差点よりー」

教授 片平 正人

講演要旨：何を研究すべきなのか？研究成果を挙げるのは難しいものですが、それより難しいのは何を研究するのかを決めることだと感じます。私の研究室では、バイオマス研究とライフサイエンス研究の二つを進行させています。前者においては、木本・草本系バイオマスから、酵素の力を活用することでバイオエネルギーや高付加価値物質を獲得することを行っています。また後者においては、病気の原因あるいは防御に関係したタンパク質や核酸の機能発現機構を解明することを行っています。これらの研究を行うようになったのには、偶然と必然の両方が寄与しています。これら二つの研究項目に関する成果とともに、どのように研究テーマが決まってきたのかもお話します。聴衆の方々の進路選択の一助となれば幸いです。

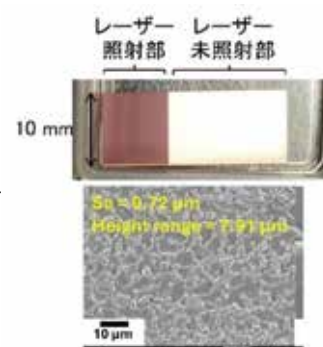
ヒト生細胞のNMRスペクトルを
生きたまま測定する装置



15:00～15:50 「レーザーとエネルギー科学 ーレーザーを使って何ができるのかー」

准教授 中嶋 隆

講演要旨：レーザーと聞いて、何を思い浮かべますか？新しいイメージ、それとも古臭いイメージでしょうか。実は、レーザーが発明されたのは、1960年、つまり、66年も前で、今となっては、基礎から応用、さらには実用まで、実に様々な場面で使われています。この講演では、レーザーの動作原理を簡単に紹介した後、我々がレーザーをエネルギー科学にどう生かしているのかについて、最近の研究成果を紹介します。右の写真は、わずか数10秒のレーザー照射によってエネルギー貯蔵等に役立つ電極を作製した例です。



15:50 閉会挨拶

副所長 野平 俊之